

中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所
地域教育支援スタッフ

no
1

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013

チュウホクドットコム

中北の地域社会 (COM munity)の心の交流 (COM munication)をめざします

「軟らかい心で」

中北教育事務所
所長 芦澤秀幸

甲府盆地を囲む山々の新緑も色濃く、渡る風も心地よい好季節となりました。皆様方におかれましては、日頃より中北教育事務所の地域教育業務にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

平成30年度を迎えて約1ヶ月が過ぎました。皆様方にはそれぞれ順調に新年度のスタートをされたことと拝察いたします。中北教育事務所におきましても新たなメンバーを迎え、所長、副所長、次長、地域学力向上推進幹、地域教育支援スタッフ2名、学校教育スタッフ6名、総務スタッフ4名の計16名に、非常勤職員のスクールソーシャルワーカー(SSW)4名、若手教員グループアップ事業におけるアドバンスティーチャー4名を含めた総勢24名体制で業務を進めているところです。今年度も事務所スタッフの総力を挙げて、各種団体との連携を図りつつ、学校教育・家庭教育・地域教育・社会教育の振興・発展のため取り組んでいきたいと思っています。

具体的な地域教育支援スタッフの業務ですが、学校・家庭・地域社会の連携推進に関することとして、「地域教育推進連絡協議会」及び「地域教育フォーラム」の開催や地域情報紙「中北.com」の発行を通して、行政・学校・地域との連携による教育力の向上を図っていきます。また、知事部局・教育関係機関・市町教育委員会・地域民間団体・福祉機関との連携を図るとともに、児童生徒の地域体験活動等への支援、保・幼・小・中・高・特・大の連携推進も行っています。

生涯各期の教育の推進に関することとしては、子育て支援リーダー実力アップ講座への参加・運営協力等を通して家庭教育、幼児教育の推進を図り、放課後子ども総合プランやしなやかな心育成事業の円滑な推進、青少年を取り巻く環境浄化のための立ち入り調査等を通して、青少年教育の推進を図っていきます。また、成人教育の推進に関して、山梨ことぶき勸学院(中北教室)の運営補助を行っています。

社会教育振興に関することとしては、社会教育団体(社会教育委員連絡協議会・公民館連絡協議会・子どもクラブ指導者連絡協議会等)の行う諸活動への支援及び社会教育振興会の事業への参加促進を図っていく予定です。

さて、詩人で書家の相田みつをさんは、「一生勉強 一生青春」という言葉を残しています。この言葉に関して相田さんは、生前「年をとって困ることは、身体が固くなるばかりではなくて、頭が固くなること、心が固くなることです。心が固くなると、感動・感激がなくなります。一生青春を保つためには、心の軟らかさを保つこと。そのためには、具体的に何かに打ち込んでいくことだと思います。」と、しばしば語っていたそうです。そして、まさに「一生勉強 一生青春」の言葉通りに生きた人だったそうです。

地域教育支援スタッフは今年度も2名体制となりますが、学校・家庭・地域社会の皆様が軟らかい心で感動・感激を分かち合えるよう、他の教育事務所との連携を図りつつ、域内の関係者と課題を共有する中で様々な事業・業務に全力で取り組んでまいります。

本年度も関係の皆様方には、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

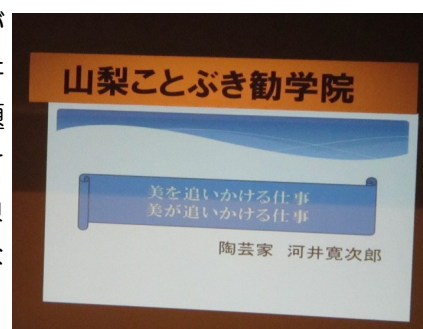


勸学院生の皆さん、御入学おめでとうございます ～ 山梨ことぶき勸学院 30年度入学式～



4月13日、後藤斎知事ほか多くの来賓をお迎えし、コラーニー文化ホールで平成30年度山梨ことぶき勸学院の入学式が挙行されました。学院長である市川満・新教育長より甲府教室57名・中北教室37名の入学が許可されました。学院長並びに知事から、ことぶき勸学院で研鑽を積んだ成果を社会に還元し、積極的に若い世代と交流しながら地域の中核として活躍していただきたいというエールが入学生の皆様送到了。

午後には、NHK甲府放送局アナウンス部副部長伊東敏恵氏の講演がありました。講師は、番組（日曜美術館）を通じて出会った陶芸家河井寛次郎氏のことば「“美”を追いかける “美”が追いかける」（演題に同じ）に強いインスピレーションを受けたそうです。永く使われ続けてきた日常の生活道具には、華やかな装飾を施した鑑賞用の芸術作品に負けない美しさがだんだん宿ってくる…人にも同じことが言えるのではないか…といった趣旨の示唆に富む講演でした。



山梨県は「健康寿命日本一」！

ことぶき勸学院の入学式で後藤知事の祝辞の中に出てきたこのことば、皆さんは聞き覚えがあるでしょうか。「健康寿命」とは、『健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間』のことで、厚生労働省が3年に1回、国民生活基礎調査のデータを基に算定しているそうです。直近のものとして、平成27年12月に平成25年のデータに基づいた都道府県別健康寿命が公表され、山梨県は男女ともに全国1位に輝きました。

では、なぜ山梨県が「健康寿命日本一」の称号を手に入れることができたのでしょうか。厚生労働省が研究を進めていますが、健康寿命に影響を及ぼす要因については未だはっきりしていないそうです。山梨県のホームページには想定される要因として以下の3つが掲載されていました。

- ①がん検診や特定健康診査の受診率が高く、県民の健康意識の高まりも一因
- ②60歳以上の有業割合が全国2位と高く、元気に働き続けている高齢者が多い
- ③ボランティア活動や無尽への参加など社会との関わりを持ちながら健康に留意した規則正しい食生活を維持していることが影響している

ここで特に注目したいのは③にある「社会との関わり」というフレーズです。現在アメリカで継続中の有名な研究があります。1938年、ハーバード大学でスタートした「成人発達研究」です。724名の若者の心と体の健康の推移を長期にわたり追跡調査してきました。今年でちょうど80年を迎えるこのプログラムは、人類史上最長の研究であるのみならず、後に第35代アメリカ合衆国大統領となるJ.F.ケネディもその若者の一人として含まれていたことでも有名です。この研究の第4代責任者である同大学の医学部臨床教授ロバート・ウォールディングー氏によると、「この研究が明確に示しているポイントは、良い人間関係が私たちの幸福と健康を高めてくれるということです。」と、幸せと健康の秘けつを結論付けています。

こう考えてみると、山梨県の「健康長寿日本一」を支える大きな柱の一つが「ことぶき勸学院」の存在であると言えるかもしれません。



特集：先輩から後輩へ受け継がれるボランティア精神

～ 甲府東高校被災地支援活動 ～

- ①被災地の方々との交流や見学を通して災害の教訓を学び、自身の防災意識を高める
- ②被災地復興作業を通して共助の精神を養う
- ③活動を通して、今後の生き方を考えさせるきっかけとする

この3つを主な目的とし、2泊3日の行程で宮城県や福島県の被災地を活動の場として行われてきたこのボランティア活動は、今年の3月で5年目（5回目）を迎えるそうです。これまでに延べ447名の生徒の皆さんが参加していると聞き、先輩から後輩へ脈々と受け継がれているボランティア精神に深い感銘を受けました。仙台市の社会福祉協議会が運営する災害ボランティアセンターから配信されているネット通信『EGAO（笑顔）通信』に、宮城県仙台市若林区荒浜（平野部としては世界最大級とされる巨大津波に飲み込まれ壊滅的な被害を受けた地域）で行われた同校の海岸清掃の記事がアップされていたので紹介したいと思います。

3/18に山梨県立甲府東高校のみなさんが、春休みの中、

若林区荒浜に海岸清掃に来てくれました



当日、風が強く吹きつける中、荒浜再生を願う会の方々からのお話にみんな熱心に耳を傾け、沢山の海岸のごみを拾ってくれました。

浜辺で長時間格闘したあとは、波打ち際にみんなで輪になって、大自然の息吹を感じ、そして一体感を感じました。

その後は、荒浜小学校をみんなで見学しました。

みなさん、寒い中休まずに、本当に一所懸命に活動してくれました。

荒浜は、数時間で見違えるようになり、住民の方々もみんな喜んでくださいました。

山梨県立甲府東高校のみなさん、遠方よりのご支援ありがとうございます。

みなさんの想いを大切に引き継いで、荒浜を守り育てていきます。これからもよろしくお願いいたします。



支援活動はもちろん、仮設住宅の方々との交流や遺構見学などを通して、参加した生徒の皆さんにはそれぞれ心境の変化があったようです。終わりに、生徒の皆さんの感想の一部を紹介したいと思います。

感想抄録「被災地復興支援活動を終えて」より

・被災地は元の状態には程遠いというのが現状だ。きっと南三陸町や他の町もとてつもなく長い時間をかけて作り上げた地元だ。だから3年という期間で元通りにできるものではない。だからこそ失った痛みは大きく、辛いのだと思う。でも被災地は前に進んでいる。少なくとも今回出会った人々は進もうと努力していた。きっと長い時間やお金もかかることだろう。私は自分のできることをしっかりやっていきたい。
(2年:女子)

・3日間をふりかえると、自分の小ささを改めて感じる事が多く、もどかしかった。今後どうなるかは僕たち次第だ。明るい未来をつくるためにこれから頑張りたい。(2年:男子)

・この3日間たくさんのお話を学んだ。南三陸の人たちは私たちよりずっと強く、絆が深いと感じた。東北のことを知ってもらうために、自分も被災したのに自分自身の辛い体験をたくさん話したり、東北の復興・復興に向けて活動が続けたりしている。これからも支援を続けていきたい。(1年:女子)

・今回の活動ですぐやろうと思ったことが3つある。1つ目は体で感じたことを多くの人に伝えること、2つ目は感謝を伝えること、3つ目は自分や周りの人の身を守るための準備をするということ。今回の経験を生かしたい。(1年:女子)



・家に帰って母に3日間あったこと、思ったことをできるだけ全部伝えた。私も泣きながら伝え、母も泣きながら長い間聞いてくれた。また父が帰ってきたので、父にも話した。その時に二人に(3日目に書いた)ありがとうのカードを渡した。父もいきなり泣き始め、すぐに免許証のカード入れに入れてくれた。渡すときは恥ずかしかったけれど、父も母も泣きながら喜んでくれてうれしかった。きっと被災地支援活動に参加しなかったら、こんなことはしなかったけれど、美南さんのお話を聞いて素直な気持ちが書けて本当に良かった。(2年:女子)

・被災地に行くことで元気を与えようと思っていたが、逆に私たちが元気をもらったと思う。今回被災地支援に行ったことで、自分自身すごく成長できたと思う。命の大切さ、感謝の気持ちを伝えること、地元の良い、人と人とのつながりなど多くのことを学ぶことができた。(1年:女子)

・被災地の現状を確かめ、少しでも力になるという目的のほかに、これから自分はどう生きていけばいいのかを見つけることを目的の一つにして出かけた。はっきりこれと決まったわけではないが、ひとつ言えることは、「人のためになりたい」ということだ。だから積極的に動けるようになりたい。(1年:女子)

平成30年度 中北教育事務所 地域教育連携事業について

当事務所が事務局となっている峡中・峡北地域教育推進連絡協議会は、学校、家庭、地域の連携推進のため、甲府・中巨摩・北巨摩の保育園、幼稚園、小、中、高、支援学校までの教職員と保護者の代表、管内7市町の教育委員会、警察、女性団体、青少年育成団体、青年会議所など120名を超える委員で組織され、年3回の研修会を開催しています。今年度も、昨年までの流れを引き継ぎながら、「子どもを支える」を基本テーマとし、以下の研修を予定しております。委員以外の方の参加も大歓迎です。地域教育情報紙「中北.com」でも御案内いたしますので、お気軽に御参加ください。

第1回峡中・峡北地区地域教育推進連絡協議会

日時 平成30年6月21日(木) 14:00~16:30 場所 北巨摩合同庁舎 101会議室

講演 「30年後の社会をつくる子どもたちのために

～コミュニティー・スクールといま私たちがすべきこと～(仮題)

講師 牧野 篤 氏(東京大学大学院 教育学研究科 教授)

第2回峡中・峡北地区地域教育推進連絡協議会(峡中・峡北地区合同地域教育フォーラム)

日時 平成30年9月20日(木) 14:30~16:30 場所 楡形あやめホール

講演 「ライフステージに応じた発達障害の理解と支援」(仮題)

講師 本田 秀夫 氏(信州大学医学部附属病院 子どものこころ診療部 部長)

第3回峡中・峡北地区地域教育推進連絡協議会

日時 平成31年1月31日(木) 14:30~16:30 場所 北巨摩合同庁舎 101会議室

講演 「子ども食堂の活動を通じて見えたもの」(仮題)

講師 内藤 陽一 氏(一般社団法人 育みの会 代表理事)

平成30年度 『中北.com』 No.1

編集・発行 中北教育事務所 地域教育支援

担当: 深澤 隆二、伊藤 哲也

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013